



Tanabe East Rotary Club in 2016-17

2016-17年度RI会長: ジョン F ジャーム

第2640地区ガバナー: 福井 隆一郎

田辺東ロータリークラブ

創立: 昭和49年5月15日

会長: 山本 亘

幹事: 谷本 司

会報: 岡本 博



例会場/事務所: 田辺市下屋敷町81-10

きのくに信用金庫田辺支店3F

Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008

http://tanabe-east-rc.com/

E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp

例会: 毎週水曜日 12:30~

ビジターフィー ¥2,000

○会長報告 会長 山本 亘



■本日のお客様は、田辺市教育委員会 文化振興課 主査 堀 純一郎 (ほり じゅんいちろう) 様と、玉井 哲也 (たまいてつや) 様です。後ほど、田辺まちづくり講座として熊野古道関連のお話を宜しくお願い致します。

■9月2日(金) 19:00~ 紀南文化会館 小ホールに於いて、(公社)白浜・田辺青年会議所様 主催、中部大学教授の武田邦彦氏の講演会と、田辺市長 真砂充敏氏をお招きしてのトークセッション「地域の未来のために ~私たちにできることを今一度考えよう~」が開催されました。多数の会員様のご参加、ご苦勞様でした。

■9月4日(日) テクスピア大阪に於いて「クラブ青少年交換委員長会議」が開催されました。青少年奉仕委員会委員長 片井貢君に出席していただきました。ご苦勞様でした。

■9月10日(土) テクスピア大阪に於いて「クラブ国際奉仕委員長会議」が開催されます。幹事 谷本司君に出席していただきます。ご苦勞様ですが宜しくお願い致します。

■持ち回り理事会のご報告を致します。

◎新入会員推薦について…承認。

■米山記念奨学会より感謝状が届きました。

第1回 功勞者 吉本正美様

■R I 日本事務局よりポール・ハリス・フェローの感謝状とバッジが届いています。

マルチプル・PHF (1回目) 吉本正美君



○幹事報告 幹事 谷本 司



■例会日時変更

■メイクアップ

◎9月4日(日) クラブ青少年交換委員長会議

片井貢君

■回覧

◎「英語版ロータリアン9月号」

◎和歌山県福祉保健部薬務課より

「平成28年度麻薬・覚醒剤乱用防止運動の実施について」

◎ロータリーの友事務所より

広報誌「ROTARY ロータリー世界と日本」
「ROTARY あなたも新しい風に」

◎福井ガバナー事務所より

「ガバナー月信9月号」

「地区大会選挙人会議のご案内」

「地区大会 信任状」

○本日の唱歌

「日も風も星も」

唱歌委員 : 伊藤博之君

作 詞 : 楠本 憲吉

作 曲 : 古閑 裕而



○ゲスト・ピジター

田辺市教育委員会 文化振興課
主査 堀 純一郎 様
玉井 哲也 様

堀 様

玉井 様



○出席報告

会員数 48名 義務免除 3名 本日の欠席者 14名
本日出席率 68.89% 8月24日の修正出席率 91.49%

○にこにこ報告

(敬称略)

◇田辺市教育委員会 文化振興課 堀様・玉井様をお迎えして

愛須勝章・後藤信博・橋本隆・片井貢・木村壽一
北村圭司・森本修至・那須壽子・野村憲司
岡本博・阪本邦夫・武田静也・竹村英一・谷本司
谷中順次郎・上原俊宏・早稲田清司・山本亘
山本善章・吉本正美

◇例会終了後のハーフゴルフ不参加です。バンザイ!! 大雨洪水警報が出ました。でも、夜は参加します!!

本田耕二



◇ゴルフ、ソケット病にかかりました。橋本電機さん 調整してください。

佐田一三



◇お花いただきます。

杉若雅宣



◇本人誕生日

◇奥様誕生日

◇結婚記念日

◎今年で結婚して21年になります。それに加えて恋愛期間が5年ありますので、妻と出会って26年、私の人生の半分以上となります。

早いものですね! 時が経つのは…。

伊藤博之



◎♪二人を〜夕闇が〜つつむ〜…

幸せだな〜僕は君といる時が一番幸せなんだ♪
嫁さんを愛して25年

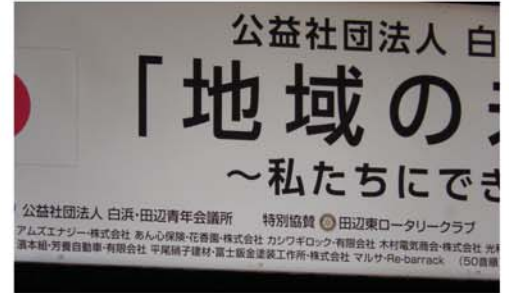
渡口真二



○委員会報告

社会奉仕委員長 吉本 正美君

9月2日JCとの協賛事業「地域の未来のために」に行ってきました。当日は会場に入りきれない方がいて、別室でモニターを設置し、講演会を見ていただくほどの盛況ぶりでした。講演会最後には林副理事長の閉会の挨拶があり、当クラブからの特別協賛をいただいていることを会場の方々にお知らせいただきました。おかげで来場者の方には東RCが周知できたことと思われます。当日は会場設営のJCの方々にお手伝いいただき、周知パネルやポスターも展示できました。そして沖会員には表題ポスターを作製いただきました。ありがとうございました。



会報委員会（雑誌担当） 那須壽子君

ロータリーの友9月号、横書き32ページより「ロータリー希望の風奨学金」についてお知らせいたします。
東日本大震災で被災され、奨学金を受けられた方々の、御礼や感謝の記事が掲載されています。
特に大学生のご父兄からのメッセージは、人の親として心を打たれる思いがしました。
ぜひ、ご一読いただき、私たちロータリアンがこのような社会奉仕活動を行っている事を認識いただければと思います、ここにお知らせいたします。



四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

----- 潮見峠と熊野参詣道 -----

田辺市教育委員会 文化振興課
文化財係 主査 堀 純一郎 様



田辺市教育委員会、文化振興課文化財係の堀 純一郎と申します。本日は潮見峠を歩かれる前の事前勉強、との事で、潮見峠を中心とした熊野参詣道のお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本当は今日のお話の際には、既に世界遺産への追加登録が決定していた筈だったのですが、世界遺産委員会が開かれたトルコでクーデター騒ぎがあったもので、審議がなされず、来たる10月下旬にパリで開かれる臨時委員会で審議される予定になっています。恐らく認められるとは思いますが、まだ認められていないのは事実なので、今回は世界遺産に登録される価値がある、という理由についてお話できれば、と思います。なお、追加登録においては長尾坂と潮見峠、また田辺市ではそれ以外に北郡（ほくそぎ）越え、赤木越えと鬮鶏神社が予定されており、つまり場所として長尾坂と潮見峠とに分けている訳ですが、一つのルートである潮見峠越えの道とおさえることができますので、これからの説明においては潮見峠または潮見峠越えの道、とだけ申し上げますが、長尾坂と潮見峠のどちらも含んでいることをご理解ください。

まず、現在の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」ですが、3つのルートがあります。大阪府から和歌山県へ入り、田辺から熊野三山への道が分かれる紀伊路、三重県は伊勢神宮を起点として熊野三山へと向かう伊勢路、それから奈良県の吉野から熊野へと向かう大峯（奥駈）道の3つです。その中でも、紀伊路は田辺から本宮へと向かう中辺路、紀伊半島を海沿いに進む大辺路とに分かれ、これに加えて高野山から本宮へと向かう小辺路を入れた3つのルートがある訳です。

それで、世界遺産に登録される理由となるのですが、非常に古い時代からの信仰の道である、ということがあげられます。どれだけ古くさかのぼれるか、については諸説あるのですが、まず間違いないのは、今から1000年くらい前、平安時代の後半から鎌倉時代にかけて、白河・鳥羽・後白河・後鳥羽、という4人の院（上皇）が熊野参詣を繰り返した、いわゆる「熊野御幸」についてはいろいろな記録が残されており、まず間違いない、ということが言えます。ただ、その記録にあるルートは田辺市の三栖から現在の上富田町、八上・稲葉根・一ノ瀬と、富田川、当時は石（いわ）田川と呼ばれていたようですが、これをさかのぼっていくルートでして、これを「御幸道（ごこうみち）」と呼ぶ場合もあります。

次に、これは一般の方からよく質問されるのですが「どのくらいの方が熊野へ参詣したのか？」ということです。ただ、これは時代によっても差がありますし、また統計をとるような習慣が昔にはありませんから、なかなか難しいのが実情です。その中で、ほぼ偶然のような形で残された記録があります。それが、現在は鬮鶏神社に納められている、江戸時代の田辺の町会所の記録『田辺町大帳』です。その元文三年（1738）の部分に「大雨が続いたので、田辺の町に泊まって

いた参詣者を避難させ、食べ物配った。その人数は全部で718人であった」と書かれています。一晩での人数ですから、これは相当なものです。また、同じ『田辺町大帳』の、これより20年ほど前の記録には、これ自体は何を目的にこのような記録をとったのかは不明なのですが、田辺の町へ6日間で約4800人弱の宿泊客があった、という記録があります。これは1日平均で800人近くになります。さらに、同じ江戸時代には京都にある醍醐寺の三宝（さんぼう）院や、滋賀県にある園城寺（三井寺）の場合、その子院である聖護（しょうご）院というお寺が京都にあるのですが、これらのお寺の代表である門跡（もんぜき）は必ず大峯道を通って熊野へ参詣することが慣わしになっていました。その一行がやってくれば田辺の町は大騒ぎになった、という記録もありますので、これらは当時、熊野参詣者で田辺が賑わっていたことをうかがわせるものと言えるでしょう。

それで、ようやく潮見峠の話になりますが、先ほどの元文三年の翌年、元文四年になりますが、この年に熊野へ参詣した人の『熊野めぐり』というかなり長文の記録が残されています。これに潮見峠での記述として「田辺の向こう、右に天神崎などいふ所、南海が目下に見えてはなはだ景よし」と書かれています。現在の潮見峠付近は残念ながら周囲の造林もあつてか見通しはあまり良くないのですが、江戸時代の記録ではほとんど「眺望よし」と書かれていて、名所の一つであったことがうかがえます。

それでよく誤解されているのが、潮見峠は江戸時代の道、ということです。確かに江戸時代には紀伊徳川家が指定した熊野街道は潮見峠越えの道になっており、誤解されるのも無理ないところではあるのですが、本当は江戸時代よりも前に、既に人々が歩いている、という証拠があるのです。それは現在の新宮市、熊野速玉大社に残されている古文書です。応永十六年（1409）と書かれているので、今から600年以上も前になりますが、当時の室町幕府において将軍の命を受けた執事（管領）が出した命令として、塩見坂へ勝手に関所を設けてはならない、ということが書かれています。関所を設けるといことは、それだけ人々の通行があった、という証拠になります。また、時宗（じしゅう）という踊り念仏で有名な仏教宗派がありますが、その高僧の一人に国阿弥陀仏（こくあみだぶつ）という人がいて、略称を国阿上人（こくあしょうにん）と言って、この僧が熊野へ参詣するところを物語風に書いた「国阿上人絵伝」という書物があります。これに「塩見峠、鹿か坂、金か坂といふは第一の險難なり」と書かれていて、これも現在の潮見峠を指している、と考えられています。国阿上人が熊野へ参詣したのは南北朝時代の設定になっていますが、多分に文学的な要素の多い書物なので、そのまま受け取ることはできません。ですが、この「国阿上人絵伝」という書物が成立したのが室町時代であることはほぼ確実となっていますので、潮見峠の存在が室町時代までさかのぼれることは間違いないのです。

つまり、室町時代には既に多くの熊野参詣者が潮見峠を越えていた、ということができるのです。このような裏付けをご理解いただいたうえで、世界遺産への追加登録が認められるのであれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。